

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第31週（7月27日～8月2日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 手洗い、感染者との密な接触を避けることが重要

定点把握感染症

「夏型感染症（咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ） 増加続く」

第31週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は764例であり、前週比27.5%増（増減なし）※であった。昨年同時期と比べて72.1%減（2019年 第31週 2,734例）と少ない状況である。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナの順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 1.98、0.58、0.53、0.27、0.20であった。

感染性胃腸炎は前週比24%増（7%減）の389例で、南河内3.19、中河内2.60、泉州2.35、大阪市南部2.17、北河内2.08である。

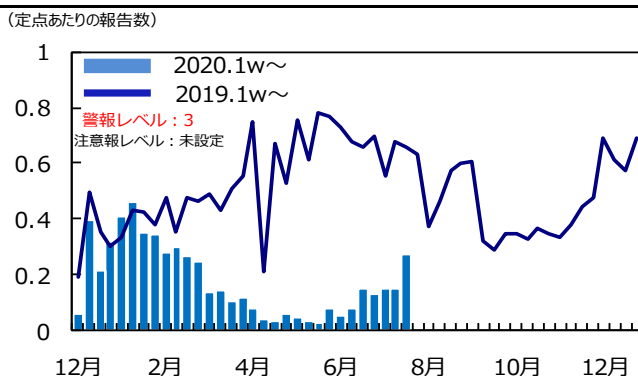
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は36%増（16%減）の103例で、南河内1.06、中河内0.90、大阪市西部0.70であった。

咽頭結膜熱は77%増（77%増）の53例で、泉州0.55、北河内・南河内0.38である。

ヘルパンギーナは38%増（29%増）の40例で、泉州1.00、大阪市北部0.36、三島0.24であった。

※ 第30週の各科定点疾患の報告数には連休による診療日数減の影響がみられたため、（カッコ内）に第29週比の値を併記した。

咽頭結膜熱



ヘルパンギーナ

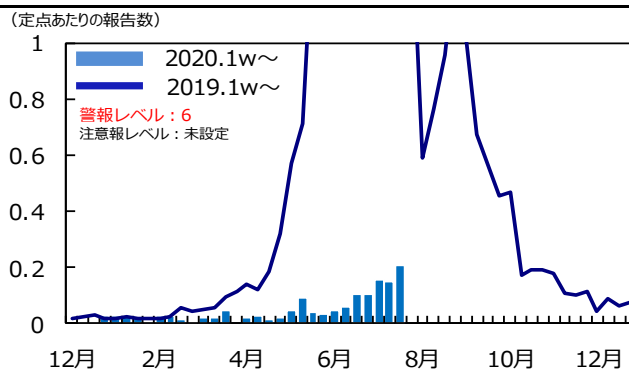


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第31週7月27日～8月2日）

第31週の順位	第30週の順位	感染症	2020年 第31週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第31週の 定点あたり 報告数	2020年第31週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	1.98	24%増	3.55	10-14歳_17%
2	2	突発性発しん	0.58	25%増	0.46	1歳_54%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	36%増	1.41	10-14歳_21%
4	4	咽頭結膜熱	0.27	77%増	0.66	1歳_57%
5	5	ヘルパンギーナ	0.20	38%増	1.70	1歳_40%

（突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。）

第31週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

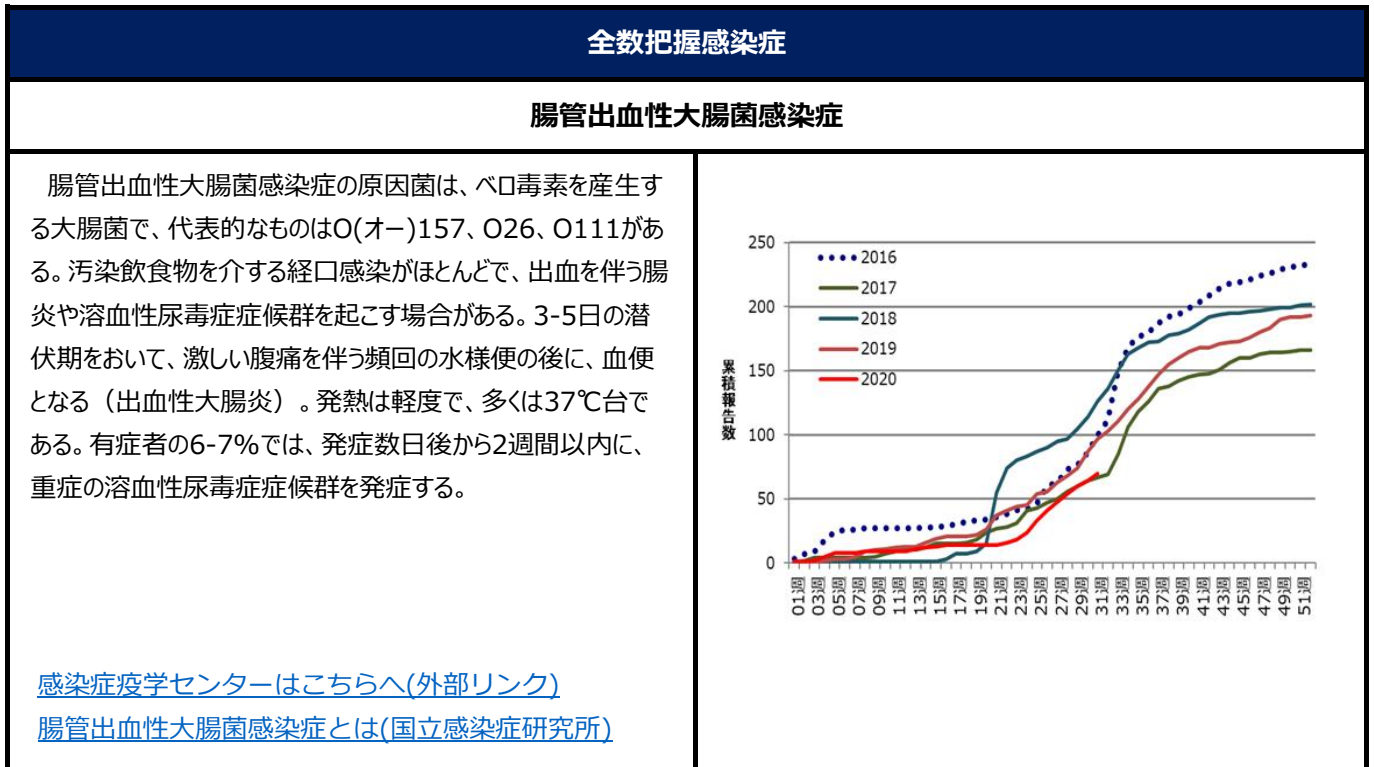


表 2. 大阪府全数報告数（2020年 第31週7月27日～8月2日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6	4					1		1	70
4類感染症	日本紅斑熱	1							1		4
5類感染症	アメーバ赤痢	1		1							32
	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	1					1			69
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1								1	4
	侵襲性肺炎球菌感染症	1							1		76
	梅毒	6	1			1				4	556
	播種性クリプトコックス症	1					1				3
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	1,258									4,446
結核 (2020年6月分)	結核 新登録患者数：67名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 29名) (府内累積報告数 640名、内 肺・喀痰塗抹陽性 239名)										

(2020年8月4日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の集計は、7月27日から8月2日の大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の情報をご覧ください。](#)